時事新報は日本國中唯一の毎日刊行新聞紙なり

時事新報

第二千十五號
明治廿一年八月十三日 月曜日
舊戊子七月六日(丙、辰)
日出午前四時五十九分 日入午後六時三十二分
月出午前一時二十八分 月入午後一時六分
滿潮午前八時五十七分 午後九時十九分
(西曆一千八百八十八年)

時事新報定價

時事新報ハ一年三百六十五日一日モ休刊セズ其代價遞送料廣告料ハ左ノ如シ
一枚二錢〇一個月前金五十錢〇三個月前金一圓五十錢〇六個月前金三圓〇一個年前金六圓
〇時事新報社ヨリ直接ニ郵便ニテ遞送スルモノニ限リ右定價ノ外ニ一個月二十六錢ノ遞送料ヲ申受ク

時事新報廣告料前金

五號活字ニテ一行廿四字詰	一行ニ付一日限	一行ニ付二日以上六日迄	一行ニ付七日以上十五日迄	一行ニ付十六日以上
一行至十行	十錢	八錢	七錢二厘	六錢八厘
十一行至卅行	九錢	七錢	六錢三厘	五錢九厘五毛
三十一行以上	八錢	六錢五厘	五錢八厘五毛	五錢五厘

時事新報

ブーランジェー論

在倫敦霞岳生寄

將軍は佛國の一武官なれども近年政治社會に頭角を現はして其威名は全歐洲に鳴渉り何れの處の政治界にも將軍の一擧一動は人の注意を惹かざるなし況して本國に在りては其評判の高さ云ふを竢さざる次第にして何れの宴會茶席に論なく又何れの新聞雜誌を問はず到る處に將軍の名聲を聞かざるなく從て毀譽褒貶の其身に聚まる者少なからずして世人は將軍を大公と稱し或は救世主と呼び若くは今ジョアン ダーク或い僞聖マヤー抔名けて佛蘭西の國語に一のブーランジェーなる新語と加へ政治家い申すに及ばず婦人老幼に至る迄も其名を口に唱へて其人物を心に關するとは亦盛なりと云ふ可し將軍の名聲人望い一方に斯の如く盛なれども然れとも都會と地方との別に依り其趣を異にするの觀なきにあらず即ち巴里に在りてい寧ろ反對者多けれども之に反し各地方に至る時は其聲望實に大なりと云ふの外なし而して將軍を信ずる者の種類に依りて之を分つに教育あり智識ある人々は多く將軍を疎んずれども之に反し無學卑賤なる下民の尊崇い實に鬼神の如しと云へり斯る次第なるが故に佛國にて近來流行のブーランジズム(Boulangism)なる一種れ新語い其解釋頗る困難なる者にして黨派と謂はんか將た主義と唱へんか若くは政略と名けんか何れも不當の訓にしてブーランジズムは人に非ず物に非ず將た無形の人望にも非らず政治上、社會上、國交上に概して無關係の文字なれば如何なる定義を下すべきや適當の文字なきなり再言すればブーランジズムの主義には旗幟綱領なく又其主義の代表者に威名あるが爲にも非ず唯、今の第三共和政治を敵とする者の結合協同してブーランジズムなる題目の聲援を借るに過ぎず方今佛國に在りてはパナマ運河、蘇西堀割の如き大工事を談ずるに當り人皆有名なるドレセップ氏を知らざるなきが如く佛蘭西共和政治の弊を論じ之れの改良を計らんとするの端緒にい必ず將軍の名を唱へざるはなし其異なる所はレセップ氏い既に蘇西の業と了り又巴拿馬の工事を大半成功せしめたれとも將軍は佛國の政治界に未だ見る可きの事業なきのみ抑も將軍は一個の人物としては申條なき美質にして今日までも陸軍部內多數の兵士に人望の盛なりしと論を唆さず佛國の名士某は此頃將軍を評して曰く將軍は男子に愛せらるゝ色男あるが故に自身の望む所に任せて或は非常の軍人たるを得べし、然れども今日迄未だ軍人たるの實を示さず、或は非常の政治家たるを得べし、然れども未だ政治家たるの能を示さず將た將軍は主義政略を持するの人に相違なけれども今日まで秘して之を世に示さざるのみならず自ら任ずるに政談者を以てせず又新聞記者を以てせず議論家ならず理想家ならず去迚一黨派の主領者にも非ず、其籌謀若くは演說は將軍自身の言文ならずして實は雄辯ある法律家と博識なる新聞記者と將軍の爲めに影武者を勤むる者なれども去迚將軍は今日迄判然たる政治上の意見を述べず實に一種不可思議なる政界の豫言者にして世人は切に其豫言を聞くとを樂めども未だ之を耳にするを得ざる故に轉た倍々奧床しき想ひを爲すのみ譬へば咲く前の花、熟らぬ間の實に均しく將軍の擧動は人に美麗完全の胸畵を描かしめて曖昧模糊の中に之を籠絡するものなりと云ふも可なり左れば其口に說く所は共和國の爲先を計り又共和國の同胞を憐むに在りと公言すれども將軍自身は共和政治を攻擊して且つ將軍の擁護者も共和政治の公敵なり或は將軍は表に民主政治を主張して過激なるロシフホール氏の後援あり又ランテルン新聞の聲助ありと雖も國會の候補者として現はるゝに及では少しも民主主義の實を示さず將ゝ將軍れ撰擧區民は概ね保守黨なるにも關はらず將軍は之に向て公然帝政の非と說ひ監督政治の不可を論じて止まざるあり抑も將軍が今日非常の勢力を養ひ得たるはボナパルト黨の後援あるが爲めなれば同黨の投票を買ひ該派の歡心を求むるの其手段にい注意大切なる可きに演說に著書に却て之を攻擊するは最も不審に堪へざるなり宗教寺院の事に關しては未だ其主義を公けにせざれども其參謀には過激なるウォルテール派あり又非僧權黨あるに拘はらずして將軍の爲めに多數の投票を與へたるは實に僧侶黨あり或は軍事に關しては將軍れ未だ人心を煽動せしむるほどの大演說を爲さざりしも軍人は概ね皆將軍に望と屬し愛國家も亦將軍の政府に立つを希はざるなし此の如く將軍は未だ一種の黨派と表せず又一種の政略をも示さず漠然たる不思議の境遇に立つが故に他の黨派は之に對して駁擊を下すの口實なく恰も風を捕へ影を攫むの姿なるより政敵の多數なるに關せずして其名聲は特に高きを得たる者なり

(未完)

雜報

○後藤伯漫遊日錄(十二日の本紙上に續く)

五日 弘前と發し青森に至る途中浪岡驛を過ぎ同地愛育社の招待に因り小懇親會に臨席したるが同社は地方有志者の創設したる者にして事業を振起し志氣と涵養するを目的となし社中の人々は何れも有爲活潑の士人なり本日の懇親會には各所へ張札を成して同志を募集したれば當日は社中外の有志者も出席したる者多く總員は百餘名にも及べり後藤伯の席上演說は大に來會者に感を與へたれ共此處はホンの休憩の場所に過ぎざれは緩々懇話する譯にも參らず遺憾ながら匆々會場を立出て青森に向ひしい午後一時過なりき青森よりは有志者十數名途中の各所に出迎へ伯の乘車の前後を擁し青森の旅館なる大町の中嶋方へ案內し此にて暫らく休憩の上夜に入り寺町の蓮心寺にて催ふさる有志大懇親會に臨席せり此夜發起人總代今泉清氏い先づ開會の主意書を朗讀し終て伯の演說ありしが何れも大に感憤して熱心に贊成の意を表したり其れより引續き小磯忠之輔氏外一二人の演說もありて伯の一行の宴席を退出したるは午後十一時頃なりしが聞く所に據れば後にて又々四名の演說ありて近頃珍らしき盛會なりしと云ふ

六日 此日は七戶へ向け出發する豫定なりしが伯は今朝一時頃より俄かに下痢を催ほし大に疲勞の樣子なればバ夜中醫師を迎ふるなど一時は中々の混雜なりしが本日は午前の內は有志者に面會するの約ありし事故强て病牀を起出てんとせしも隨行者一同の痛く留めさるより朝來據なく有志者の面會を謝絕し出發も又見合せとなれり併し伯の病狀は固より一時の事にて差したる病根あるにあらざれば夕刻に至り就褥の儘來訪の有志者に面會し明日は早朝より七戶へ向け出發する事に決せり

○東洋英和女學校 麻布區鳥居坂の同校は去る明治十七年十一月の設立にて校長英國人ミセス ラーヂ 校務を督し外に五名の英國女教師あり各本國大學校の卒業生なるよし尙其他日本人の女教師五名と男子の譯讀教員三名あり近來英語學の流行に連れ同校も大に入學生の數を增し昨年來滿員にて悉く入校の申込を謝絕する程なるを以て一棟の新校舍を建築し先々よりの申込人を順次入校せしむる筈なり目下生徒の數は二百五十餘名なりと云ふ

○警察事務の改良 田神奈川縣警部長は警察事務に着々改良を加ふる由にて是迄警察署より公務上人民を呼出すに姓名を呼捨になしたるを爾今殿付にすると又其招喚狀には必ず招喚の要件を記入すること又遺失物屆、拘留人に面會願、拘留人に差入物の願等は渾て口頭のみにて辯せしむる樣各警察署長に訓令を下したりと云ふ

○馬車鐵道工事 秋田縣下にて計畫中なりし秋田馬車鐵道會社は本社を秋田町に建築し同所より土崎港迄レールを敷設する筈にて右の工事は日本土木會社にて引受け既に此程より着手せりと尤も請負金額い二萬圓にて今より向ふ四ヶ月間に悉皆竣工せしむるといふ

○長崎通信 八月六日發

長崎稅關の貸庫 長崎稅關にては去る一日より同關倉庫の內監視課右側の分數棟を荷主に貸與ふべき旨を揭示せり其一棟の貸料い一ヶ月七圓(十五日以內は半額十六日以上は全額)づゝにして爆烈、汚臭等のものを除き輸出未稅、輸入已稅の物品を入るゝを許す方法にて規則十七條を設けたりこの便法い元來朝鮮各地貿易者の爲めに設けたるものなれども他の各國貿易に於て物品も右に準じて貸與するのことなり尤も其外の貸庫に入るゝものい從前の通り庫稅を徵收すと云ふ

撿疫を施行せし艀數 長崎港に於て客月三日女神撿疫所を開設して虎列剌病流行地より來る船舶を撿疫することゝなりてより同月廿八日迄流行地即ち香港其他よ